

卷頭言

「健やかに、幸せに満ちた『まち』となるために」

どんな人もお互いにつながり、支えあう地域共生社会を築ければ、いつまでも健やかな幸せに満ちたまちになる。佐賀市の未来はそうありたいと考えております。それは、精神障がいのある方々が地域社会で安心して暮らし、活躍できるまちでもあります。

近年、佐賀市における精神障害者保健福祉手帳の所持者数は増加傾向にあります。社会的ストレスの増加など、精神疾患の発症リスクが高まっていることも一因として考えられます。また、精神障がいへの理解が少しずつ進み、福祉サービスの充実が図られてきており、適切な支援を受けるために手帳を取得されているとも考えられます。

佐賀市では、精神障がいのある方々とそのご家族の皆様が、適切な支援を受けながら安心して暮らすことができる環境を整えるために、関係機関とも連携して相談支援に力を入れております。「相談先が分からない」、「複数の困りごとがある」などの場合でも、福祉に関する様々な困りごとをまとめてご相談いただけるように、「福祉まるごと相談窓口」を設置しております。

また、家族会でも、情報共有や相談の場を提供されています。同じような経験を持つ家族が集まり、悩みや課題を語り合うことによる「会員同士の共感」は、孤立感の解消や心理的な支えにつながるなど、非常に大きな役割を担っています。共感を基盤とした支え合いは、家族会の大きな強みであり、地域社会における貴重な財産になります。

さらに、行政以外の支援も広がってきています。JRグループでは、この4月から、精神障害者保健福祉手帳を持つ方を対象とした鉄道運賃の割引制度が始まりました。利用するためには条件がありますが、支援の取り組みが多方面に広がり、精神障がいのある方の社会参加の促進につながっていくことが期待されます。

障がいのある方やその家族を支えて受け入れるまちは、地域全体の安心につながります。地域や職場、学校等日常生活のあらゆる場面で合理的配慮や必要な支援を受けながら、障がいのある方がそれぞれの個性や能力を発揮できる地域共生社会を実現することをめざし、すべての市民が健やかで幸せに満ちた日々を過ごせるまちづくりに努めてまいります。

末筆ながら、貴会の会員の皆さまには日ごろから精神障がいのある方の社会参加に向けて様々な取組を行っていただいておりますことに、改めて深く感謝を申し上げます。

佐賀市保健福祉部長 牛島 省吾



この広報誌は、赤い羽根共同募金の配分金で発行しています。

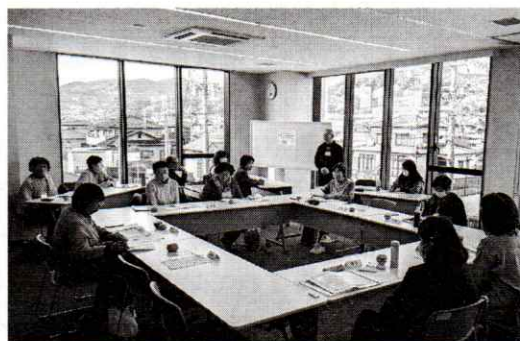
家族による家族のための家族学習会が終了しました

佐賀県では令和2年から開始して今回で5回目となります。令和6年度は10月～令和7年2月の5回シリーズで開催しました。家族学習会は家族の孤立感を軽減するとともに正しい知識や対応方法を学ぶことで、家族が元気になることを目的としています。参加された皆さん始めは緊張されていますが、担当者とともにテキストに沿って学び合い、体験や経験を語り合うことで「自分だけが悩み苦しんでいるのではなかった」と安心され、回を重ねるごとに元気を取り戻されます。終了後に3名のご家族が新たに家族会へ入会されました。

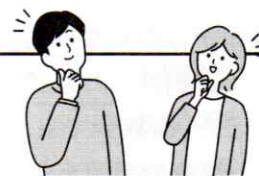
令和7年度は家族学習会に参加された方が対象の担当者養成研修会を予定しております。引き続きこちらへのご参加もお待ちしております。

感想

- 相談相手がなく病气入院中の家族が良くなるのか不安でしたが、話を聞いてもらい、また、皆さんからのお話を聞くことで先を明るく見通せそうです。
- 同じような立場で皆さんのお話をお聴きし自分一人ではないことが分かり、心の加瀬が少し取り払われた感じがしました。気持ちに余裕ができました。



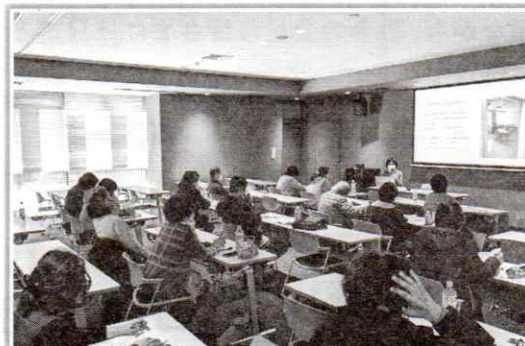
相談員研修会



令和7年2月17日（月）ゆめぷらっと小城にて家族相談員研修会を開催しました。前半に佐賀県精神保健福祉センターの宮下所長より「精神科疾患の理解」と題し、主に気分障害と自閉症スペクトラム障害について架空の事例を挙げながら説明していただきました。

後半は山口係長に「センターでの相談対応事例から」として、疾患別の架空事例をもとに相談者とかかわりについてのポイントと、相談員の役割を学びました。

最近は統合失調症以外の精神疾患を持つご家族からの相談もあり、知識のアップデートと相談者が安心して悩みを話せる姿勢や、必要であれば専門家へつなぐ等の再確認ができました。





行政・医療の現場から

『入院患者さんの権利を守るために ～入院者訪問支援事業～』



令和5、6年度の精神保健福祉法改正では、入院患者さんの権利擁護に重点が置かれ、医療保護入院期間の法定化や虐待防止の推進などが盛り込まれました。その一環として、訪問支援員が入院患者さんと面会し、傾聴を通じて権利擁護を行う「入院者訪問支援事業」が新たに創設されました。

私が最初に入院患者さんの人権について考えたのは、看護学生時代の精神科実習でした。受け持ちの患者さんは60代の男性で、20代から医療保護入院をされており、すでに両親や兄といった血縁者を亡くされ、いわゆる身寄りのない方でした。しかし、約半年に一度、義姉が面会に訪れており、実習期間中にその面会に立ち会う機会がありました。

面会は10分程度でしたが、義姉は「本人はとても優しく真面目な人。頑張りすぎて病気になってしまった。本人も寂しいだろうから、たまに面会に来ている。」と話してくださいました。また、帰り際、義姉は本人に菓子パンと少しのお金を手渡され、本人は嬉しそうな表情を浮かべながらも、どこか悲しげに病室へと戻られる姿が今でも印象に残っています。私自身、本人に義姉という理解者がいたことにほっとしたと同時に、もし義姉のような存在がいなければ、本当の意味で本人を理解し支えてくれる人はいないのではないかと考え、悶々とした気持ちを抱いたのを覚えています。

精神科に入院されている身寄りのない方の多くは、スタッフや他の患者さんなど院内の人間関係に限られがちであり、その人らしさを理解し尊重できる存在は少ないのが現状だと思います。入院者訪問支援事業は、こうした患者さんたちに外部から訪問支援員が関わることで、院内にとどまらない支援の可能性が広がります。

佐賀県でも令和7年度中に入院者訪問支援事業を開始できるよう準備を進めており、入院患者さんのその人らしさを尊重しつつ、権利擁護に取り組む体制づくりを推進していきたいと考えています。

佐賀県障害福祉課 木場 海人

賛助会員を募集しています

こころの病気を持ちながら頑張っているご本人と家族の応援団になってくださる賛助会員を募集しています。賛助会員にはこの「SAGA精連誌」を送付します。会費は当会の活動に大切にさせていただきます。皆様のご支援をおまちしています。手続きは下記の口座をご利用ください。ご協力どうぞよろしくお願いいたします。

賛助会費 ◎団体：一〇 10,000円 ◎個人：一〇 3,000円

【郵便振替口座】

口座番号 01730-7-85175

口座名 佐賀県精神保健福祉連合会

【銀行】佐賀銀行 唐津支店 普通預金

口座番号 1897535

口座名義 佐賀県精神保健福祉連合会 会長 松田孝

大切な心

大切な 大切な
あなたからの心が
すごく大事に 想えます
いつも ありがとう
母さん 姉さん
そして友よ
大切にしたい
あなたが居てくれたから
私は こうして
生きてます
ほんとうに 本当に
ありがとう

小楠 淳子



手紙

「ありがとう」
その言葉を伝えるために
いくつの言葉を並べたことが
もっと素直な心で
気持ちをシャイにして書けば
きっと伝わるはずだった
無我夢中で
必死になってしたための手紙
私の感謝の気持ち
伝わったかな
きっと元気になるから
待っててね

小楠 淳子

月刊 みんなねっと

4
2025



特集 オープンダイアログによる
対話的支援

発行所 全国精神保健福祉会連合会



「月刊みんなねっと」を購読しませんか？

「月刊みんなねっと」は賛助会費をお振込みいただくと毎月お手元に届きます。個人でお申し込みの場合は個別賛助会員（年間 3,600 円）、2 名以上でお取りいただける方は複数賛助会員（年間 3,600 円 × 人数分）、家族会団体賛助会員（会費についてはお問い合わせください）となります。

【お電話または FAX でのご入会】

Tel: 03-5941-6345 / Fax: 03-5941-6347

※お掛け間違えのないよう、お願いいたします。

【郵便振込先】 公益社団法人 全国精神保健福祉会連合会
口座番号 00130-0-338317

私の船乗り時代の経験を時々皆さんにお知らせしたいと思います。見ていただければ幸いです。ちなみに私の職名は機関士、航海関係の記述は航海士ではないので不正確な部分はお詫びします。

混乗体験その2(フィリピン人)

平成になるころからの船員さんのグローバル化は留まるところを知らず、その中でも世界でメジャーな存在となったのがフィリピン人でした。

彼らは世界共通語とも言える英語が堪能で気質も温厚で瞬く間に世界の船員市場で混乗相手となって行きました。私の会社でも前号で述べた韓国人あるいはインド人などの混乗があったが日本人のパートナーとしてはフィリピン人が圧倒的に多かったのです。

●フィリピン人の英語力

フィリピンではフィリピン語の他に英語が公用語であり、学校も中学校、高校となると英語の教科書で勉強する事が多くなります。アメリカ、スペインから植民地になった歴史があり、彼らの英語にはスペイン語訛りがあります。数字も「uno, dos, tres」などとスペイン語読みにする事が多くあります。文法的には日本人でも対抗できるのですが、幹部船員の英文章を読む速さ、ヒアリング力は圧倒的でありとても及ばないと一緒に働いていて思いました。大体アメリカの映画を字幕なしに楽しむ姿にすごいなと思います。

●フィリピン人は暑さに弱い？

機関部での大仕事の一つに発電機のピストン抜きと言って1000馬力位のエンジンをバラバラにして整備作業があります。大体丸2日位の作業。熱い機関室は赤道付近のエリアでは40度を超えます。そこで気づいたのは彼らが暑いお国で過ごしてきた割には暑さに弱い人が多いことです。作業が1時間を超えるあたりから1人、またもう1人とその辺に座り込む人が増えてきます。(総勢日本人2名、フィリピン人5名程) 気づいた機関長の私は「どうして座り込むんだ？」と尋ねると彼らは簡単に「暑い」と言った。「ずっと暑い国で過ごしてきたのに暑さに弱いんだね？」とびっくりしたものです。前号で記した韓国人はニンクパワーが少々ではへこたれない強さをもっていました。。

●フィリピン人の獲物をかすめる機関長

乗船中の楽しみの一つは各国の港に停泊した時に楽しむ魚釣り。オーストラリアはどこに行ってもよく釣れますが、その時石炭運搬船が停泊したのはシドニーの近くのニューカッスル港。沖の岩場で停泊しましたが、釣れる魚種がタイ、赤メバル(九州ではあらかぶ、多くは赤メバルか？フィリピン人はラブラブと呼ぶ) とおいしい魚が多い。そこで多くのフィリピン人釣り人に「ラブラブが釣れたらくない？」と事前に連絡しておく、必ず1尾や2尾が届くことが常でした。上前をはねるようで気が咄めるので、時には魚を刺身にする手伝いをしたり、ビールを提供したりとサービスをしました。後は日本人2-3名用の料理をして「1杯！」を楽しみました。

性格の穏やかなフィリピン人の皆さんとの生活は楽しみに満ちていました。たまに楽しむ宴会では子豚の丸焼き(半日かけて焼く！)も出て豪勢なごちそうが並びます。その後は彼らのカラオケでの2次会。私も英語の歌の2-3曲はレパートリーが必要となりますのでよく練習したものでした。

ということで、たいていの混乗船は問題も少なく楽しい航海が続く。。。そんなフィリピン人の皆さんとの生活でした！

SAGA精連会長 松田 孝

【お詫び】 前号で「船乗りのたわごと(その3)」と表記しましたが、正しくは(その4)でした。深くお詫び申し上げます。

■ 令和6年度 SAGA精連賛助会員・賛助費

皆さまのご理解ご協力に心より感謝申し上げます

(敬称略)

1. 江島 佐知子 様	3,000円	21. 松永 春満 様	3,000円
2. 友朋会 様	10,000円	22. 吉井 久美子 様	3,000円
3. 多布施クリニック 様	10,000円	23. 藤武 久子 様	3,000円
4. 悠心堂クリニック 様	10,000円	24. 久石 祥浩 様	3,000円
5. たじまメンタルクリニック 様	10,000円	25. 大隈 キヨ子 様	3,000円
6. 睦 様	10,000円	26. 原 則子 様	3,000円
7. 藤田歯科医院 様	10,000円	27. 辰野 律子 様	3,000円
8. 鮫島 隆晃 様	5,000円	28. 井手 邦子 様	3,000円
9. さめじま病院 様	3,000円	29. 中島 義則 様	3,000円
10. やまと心のクリニック 様	10,000円	30. 山口 義人 様	3,000円
11. 神野病院 様	10,000円	31. 江頭 芳子 様	3,000円
12. ユニカレさが 様	10,000円	32. 森田 由佐子 様	3,000円
13. 土井 敏行 様	3,000円	33. 松田 孝 様	3,000円
14. 中央軒 様	10,000円	34. 江本 照子 様	3,000円
15. 清友病院 様	10,000円	35. 荻野 浩樹 様	3,000円
16. 白石保養院 様	10,000円	36. 陣内 計江 様	8,000円
17. 吉岡 洋 様	3,000円	37. 野田 理津子 様	8,000円
18. 織田病院 様	10,000円	38. 松瀬 さおり 様	8,000円
19. 早津江病院 様	10,000円	39. 友田 明子 様	8,000円
20. 堤 義和 様	3,000円	40. 匿名希望 様	8,000円

家族相談しています

場 所

佐賀県精神保健福祉連合会
(SAGA精連)事務局

Tel・Fax

0952-72-4797

開催日時

毎週月曜日 10:00~12:00
(尚、祝日・お盆・年末年始はお休みです)

対 象 者

精神疾患を抱える人の家族



発 行
事務局

佐賀県精神保健福祉連合会
小城市小城町178-9 〒845-0001
TEL・FAX 0952 (72) 4797
E-mail : kenseiren_saga@yahoo.co.jp
HP : <https://sagaseiren.com>

